

芸術と憲法を考える連続講座

2018年夏までのラインナップ

毎回18:30スタート(開場18:15)

藝大生も一般市民も、どなたでもご参加いただけます

参加費無料・事前予約不要

第3回

2/15
(木)

美術館と表現の自由

— 戦後・現代美術からの問い
〈クロストーク・学芸員〉



武居 利史 (たけい・としふみ)

1968年生まれ。府中市美術館学芸員・教育普及担当主査。公立美術館の開設準備に携わり、2000年の開館以来、現代美術の企画展、公開制作やワークショップ等の教育普及プログラムを手がける。'93年東京藝術大学芸術学科卒。



成相 肇 (なりあい・はじめ)

1979年生まれ。府中市美術館学芸員を経て2012年から東京ステーションギャラリー学芸員。戦後日本のアヴァンギャルドを研究対象の中心にしながら、文化横断的な展覧会を企画。主な企画展に「石子順治の世界—美術発・マンガ経由・キッチン行」(府中市美術館、2011-2012年、第24回倫理美術奨励賞)ほか。

第4回

3/19
(月)

戦争と地続きの国に暮らして

～世界を駆ける演奏家が語る戦争と平和～



中村 功
(なかむら・いさお)

3人のパーカッションリストが、憲法と平和の原点に思いをはせ、熱く語ります。古今東西のリズムの輪に、世界は1つに融けあって。さあ、皆さんも一緒に！

1958年大阪生まれ。81年東京藝大、89年フライブルグ国立音大卒。これまでにシュトックハウゼン、ノーノ、ケージ、細川等の作曲家の多くの作品の初演、またソリストとしてケルン放送響、バイエルン放送響、シュツットガルトオペラ管、RAI イタリア放送響ほか、数多くのオーケストラと共演。04年インハラホール公演「三井の晩鐘」にて第4回佐治敬三賞ほか、受賞も多数。92年よりカールスルーエ国立音大教授。

聞き手 **中谷幸子** (なかたに・ゆきこ) 打楽器奏者
中谷孝哉 (なかたに・こうや) 新日本フィル団友、武蔵野音大教授

第5回

4/25
(水)

安倍改憲と表現の自由



戦後、言論・表現の自由が保障されてきた日本。今、その自由が揺らぐ中、憲法改正論議が始まっている。市民不在の改憲はどんな社会を生み出すのか？公権力・メディア・市民の関係の検証から、その答が見えてくる。

山田 健太 (やまだ・けんた)

専修大学人文・ジャーナリズム学科教授、専門は言論法。日本ペンクラブ専務理事。放送批評懇談会、自由人権協会、情報公開クリアリングハウスなどの各理事を務める。著書に「放送法と権力」「見張り塔からずっと 政権とメディアの8年」「法とジャーナリズム 第3版」など多数。毎日新聞、東京新聞、琉球新報にコラムを連載中。

第6回

5月開催

知ってますか？ 作文・美術教育が罪とされた時代



治安維持法下の日本で、多くの若い国語教師、美術教師、学生らが逮捕された、北海道綴方教育連盟事件と生活図画事件とは？

佐竹 直子 (さたけ・なおこ)

1966年釧路市生まれ。NHK釧路放送局などを経て、北海道新聞釧路支社報道部記者。緻密な取材をもとに2013年11月から北海道新聞夕刊釧路根室版に31回にわたり連載した企画をまとめた著書『獄中メモは問う 作文教育が罪にされた時代』(北海道新聞社、2014年)で、2015年度日本ジャーナリスト会議賞(JCJ賞)、地方出版文化功労賞を受賞。



松本五郎作「レコードコンサート」

第7回

6/22
(金)

へいわってすてきだね

～沖縄のゆうき君とぼくの絵本作り～



へいわって なにかな。
ぼくは、かんがえたよ。
沖縄慰霊の日(6/23)
前夜に送る絵本ライブ。

長谷川 義史 (はせがわ・よしふみ)

1961年大阪生まれ。独特のタッチとユーモアあふれる作風で、社会性のあるテーマの絵本作りに取り組む。「ぼくがラーメンたべるとき」で日本絵本賞、小学館児童出版文化賞を受賞。



第8回

7/24
(火)

「ナチスの手口」と芸術



石田 勇治 (いしだ・ゆうじ)

1957年、京都市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。専門はドイツ近現代史。マルブルク大学Ph.D取得。ベルリン工科大学客員研究員、ハレ大学客員教授を歴任。主な著書に『ヒトラーとナチ・ドイツ』、『ナチスの「手口」と緊急事態条項』(長谷部恭男氏との共著)など。

主催 東京藝術大学 音楽学部 楽理科

共催 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

会場 東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部 5号館 109教室 18:30～21:00(18:15開場)